

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770102907		
法人名	医療法人社団 緑洋会		
事業所名	グループホーム アダージオ泉		
所在地	高松市春日町1336-1		
自己評価作成日	平成27年9月17日	評価結果市町受理日	平成26年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&ligosvoCd=3770102907-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成27年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分らしい生活スタイルでゆったりと過ごしたいと考える利用者をサポートし、快適な生活の中で緩やかに(アダージオ)老いを受け入れ、暮らしの中に喜びを感じられる事業所であることを理念としています。また認知症の専門医が理事長を務める医療法人が運営している事業所であることを活かして、医療・介護で連携を取り、利用者が日々健康的で穏やかな生活を送れることを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

「ゆるやかに(アダージオ)老いを受け入れ、生きる喜びを感じられ、ゆったりと家庭的で快適な生活を続けていけるケア」を理念とし、日々の実践に取り組んでいる。事業所は、閑静な住宅街に位置し、静かな落ち着いた環境にある。コの字形の建物は、中庭があり、居室や居間、廊下も広く、日当たりよい空間となっている。また、運営母体である医療法人の理事長は、認知症の専門医であり、日常的に事業所を訪問しており、普段から医療との連携が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で穏やかな生活を続けられるように、管理者・職員は毎日の業務ミーティング時に理念を確認し、実践につなげている。	「ゆるやかに(アダージョ)老いを受け入れ、生きる喜びを感じられ、ゆったりと家庭的で快適な生活を続けていけるケア」を理念とし、毎日の業務ミーティング時に唱和し、理念の確認をしている。理念は、玄関と事務所に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に自治会長・民生委員や近所の方にも出席をしていただいている。また、毎年地域の自主防災会にも参加している。近所の方の訪問や見学も増えている。	自治会の清掃活動には職員が、地域の防災訓練には利用者と職員が、参加している。近くの保育園とは、保育園行事に利用者が参加をしたり、園児が事業所にお花を持って訪問してくれるなどの交流がある。また、香川大学医学部学生の研修を受け入れている。自治会会長の協力により、運営推進会議には、自治会長と地域住民が順番に交代で参加しており、運営推進会議への参加が、地域住民の事業所訪問や見学の増加につながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にグループホーム・認知症への理解を深めていただくために、施設内の見学、パンフレットの配布、近所の催しへの参加を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、理解と支援をいただくために、日ごろの取組内容や具体的な改善課題について、報告・情報交換・意見交換を積極的に行い、サービス向上につなげている。	運営推進会議は、2ヵ月に一度に開催している。行政や民生委員、自治会会長、地域住民、利用者家族等が参加している。事業所の現状や活動を報告している。その中で具体的な事例を報告しており、参加者から具体的な助言を得ている。また、外部評価結果も運営推進会議に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市介護保険課や地域包括支援センターの担当者に、介護保険制度に関する問い合わせや確認、施設のみで対処困難となる事例の相談をし、協力を得ている。	市介護保険課や地域包括支援センターの担当者には、困難事例を相談したり、介護保険制度に関して情報提供を受けている。地域包括支援センターには、事業所パンフレットを置いてもらっており、市ホームページに事業所の空き情報を入力するなどの協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束に関して、正しい理解と実践を行うため、内部研修を行っている。	年一回、研修を開催し、身体拘束について職員が正しい理解を得よう努めている。現在、事業所の立地条件や利用者の状況により、各ユニットの玄関は施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に参加して、職員一人一人が知識と意識をもって、虐待のない施設運営に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解を得るために、職員それぞれが学習し、活用するために地域包括支援センターをはじめとする関係各所と都度相談を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容について十分に時間をかけて説明し、わかりにくい点、不安や疑問が生じていないかを確認している。また契約後も細かく対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者及びご家族などからの意見・要望は、全職員が理解できるよう申し送りで報告し、サービスの向上に活かしている。また運営推進会議でも代表的な事例を報告し、出席者からの意見を聞いて、今後につなげている。	意見箱を設置しているほか、家族の面会時に、直接個別に意見や要望・苦情等を聞き取っている。意見や要望は、職員ノートに記入するとともに、申し送りの際に報告している。運営推進会議でも、具体的な事例を報告し、意見を伺い、運営に活かすよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全ての職員が、理事長・理事にそれぞれの意見や提案を聞いてもらう機会は日常的にあり、対応可能なものは反映されている。	代表者は、頻繁に事業所を訪問しており、代表者や管理者は、職員の意見や要望・提案等を聞く機会を日常的に設けており、職員からの提案や意見をサービスの向上に活かすよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長・理事は、管理者や職員の日ごろの努力や具体的な実績・勤務状況などを職員処遇へ反映し、向上心を持って働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長・理事が職員の日常業務を観察して、力量を量り、内部研修の他に外部研修を受けて、技術の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと互いの施設見学を行ったり、意見交換をしてサービスの水準の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご本人と面談するだけでなく、相談員・ケアマネジャー・ご家族からこれまでの状況・生活歴などを聞き、ご本人に寄り添えるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、ご本人・ご家族等に見学に来てもらい、困っていること、不安に思っていること、要望等を可能な限り、時間をかけて聞いている。また、入居後も細かくフォローを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時のご本人・ご家族等の実情や要望をもとに、必要としている支援を見極め、最適な支援方法を模索し、解決につながる選択肢をご本人とご家族へ再提示し、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご本人と生活を共に支え合い、穏やかな生活が継続できるよう、親密なコミュニケーションと介護技術の実践から信頼関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員のみで対応に苦慮している事柄について、ご家族の面会時に報告・相談しながら、これまでの両者の関係の中から解決できるヒントを探し、良い方向へ導く努力をしている。また、疎遠気味のご家族へは近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもとに、友人・知人との面会や外出等、なじみの関係が途切れないように支援に努めている。	友人・知人との面会や外出等は、利用者家族に利用者の希望等を伝え、なじみの関係が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は個別にわかりやすく記載して、職員間で情報を共有している。介護の実践・介護計画書の見直しは、チームで意見確認をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族からの希望があれば、フォーマルサービスだけでなくインフォーマルサービスの利用も可能であり、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年お花の日に、近くの保育園から園児がお花を持ってきてくれる。保育園のお祭りには参加できる入居者が参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には運営母体の泉クリニックがかかりつけ医となるが、入居時にこれまでのかかりつけ医を希望される方は、引き続き受診していただいている。	入居時に説明をし、本人や家族の意向により、かかりつけ医を決めている。運営母体の泉クリニックをかかりつけ医とした場合は、月一回受診し、家族に結果を報告している。従来のかかりつけ医を希望される場合は、家族に同行をお願いしており、診察結果については、家族と情報を共有している。なお、家族が同行が困難な場合には、職員が受診に同行する場合がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に医師・看護師と連携を取っている。週に一度看護師が訪問して、全入居者の状態の確認・指示・医師への報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が医療機関に入院した際には介護サマリーを提供し、定期的に電話で経過確認をしたり、見舞いをしたりして状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にあらかじめ重度化や終末期に至った場合に事業所のできることを説明し、ご本人・ご家族から意向を聞き、主治医に伝えている。入居後もご本人の状況に合わせて、その都度確認をとりながらサービスを提供している。	入居時に事業所のできる範囲を説明し、本人・家族の意向を確認して主治医に伝えている。利用者の状況の変化に合わせて、その都度話し合いを重ね、方針を確認している。本人・家族の希望により、事業所での看取りにも対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変や事故が発生した場合に、全職員が確実に行動できるようマニュアルを整備し、施設内外での研修にて技術を習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での避難訓練は年2回行っている。地域の災害訓練には、年1回ご利用者と参加している。施設内避難に備えて、食料や飲料水などの備蓄をすすめている。	年2回の火災対応の避難訓練を実施している。地域の地震想定避難訓練に、年1回参加している。災害時の協力体制について、地域への働きかけを行っている。大規模震災を想定して、備蓄を行っている。	災害時の協力体制について、地域への働きかけを継続的に行っているが、避難した利用者の見守りなど具体的に協力をお願いしたいことを提案するなど、地域へ働きかけを継続されたい。また、大規模震災や水害は、夜間や被害状況の設定により、職員が取るべき行動が変化するので、設定を変えて検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを込めたはずのコミュニケーションが、過ってご利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう、職員一人ひとりが、自ら及び共に働く職員を律する意識を持つことを心掛けている。	接遇研修を実施し、利用者の誇りやプライバシーを損なわない、声かけの仕方について、職員一人ひとりが意識を持つように機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を継続していく中で、できる限り自己決定の機会がもてるよう、職員から問いかける機会を設けるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での大まかなスケジュールはあるが、急かさず一人ひとりのペースに沿って、読書や音楽鑑賞などを楽しんでもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望があれば、ご家族や知人の協力のもと、美容院へ行ったり、洋服や必要なものの買い物を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の配膳・下膳・後片付けなどを行っている。	献立の作成と、食材の納入を外部業者に依頼しており、調理済みのメニューと職員が調理するメニューがあり、調理済みのメニューも味付けなどの仕上げは職員が行っている。介護度の高い利用者が増えているが、可能な方には、配膳や食卓を拭いたり、片付けなど、手伝える範囲を職員と行っている。現在は、入居して間もない利用者が多く、支援が必要なため、職員は利用者の食事が終わってから食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食材が配達され、それを毎食調理している。一日の摂取量を記録し、毎月体重測定・BMIのチェックをしている。水分の取りにくい人や保持しにくい人には、スポーツドリンクを摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週1回の訪問歯科による口腔ケアがあり、その指導のもと自主的にできる人は、毎日毎食後に自身で口腔ケアを行っている。できない方は、夕食後に介助見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行うのみならず、尿意・便意のある方はその都度トイレへ誘導している。おむつに頼るのではなく、可能な限りトイレでの排泄を促している。また排泄表の記録も行っている。	排泄チェック表を基に、一人ひとりの排泄パターンを把握して、定期的に声かけし、トイレへ誘導している。拒否をされる場合は、時間をおいて声かけをしたり、食事などで移動をする際に、声かけしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ラジオ体操・足踏み運動をしている。排泄表により、排便状況に応じて牛乳・スポーツドリンクなどの水分をよく取ってもらい、便秘の解消に働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は基本的に週3回午前中に行っており、好きな曜日・時間帯で行うことはできないが、入浴の順番は可能な限り希望を聞きながら行っている。	午前中の週3回を入浴とし、利用者の状態や体調にあわせて、入浴をしている。介護度の重い利用者には、2名で入浴介護を行っている。入浴順についても、希望を聞くなどの配慮を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り一日のリズムを崩さないために、日中はホールで過ごしていただいている。一人ひとりの希望や状況に応じて、椅子・ソファ・畳にて思い思いに心地よく過ごされるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋が出された際に、その都度職員は確認して、薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、これまでの処方箋状況から変更があれば、記録に記載し申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事により、四季折々のことを楽しく過ごせるように、ご利用者が出来ることを考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・お墓参り等の施設外への外出には、ご家族またはボランティア・知人の方に、協力・支援してもらっている。	週一回程度レクリエーションとして、近所への散歩やコンビニエンスストアで買い物に出かけている。遠方への外出は、家族や知人、ボランティアの協力を得て行っている。	気候の良い時期に事業所の駐車場で短時間過ごしたり、ユニットの中で外出に支障の少ない利用者の外出支援を検討するなど、日常的な外出の機会を増やす取り組みに期待したい。ボランティアの協力を得る場合は、具体的に支援をお願いする利用者を想定して、ボランティア募集を行うと、ボランティアの役割を明確にできるので、募集をされる際の参考とされたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時から、現金は待たない、預からないようにしている。ご本人が購入したいものがある場合は、ご家族の了承を得て、立替購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人・ご家族より希望があれば、電話をかけたり、手紙やはがきを投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏冬とも温度管理リストがあり、温度設定がされている。夏はエアコン、冬は床暖房を使用している。庭には、春には桜が咲き、夏には蝉が鳴き、秋には紅葉が色づき、冬には落ち葉となって、四季を感じる事ができる。	コの字型の建物であり、日中の大半を過ごす居間は、日当たりのよい空間となっている。中庭は、季節により、桜の花や紅葉を楽しむことができる。夏は冷房、冬は、床暖房設備があり、温度管理を行っており、過ごしやすい環境となるよう配慮している。共用空間には季節の花や絵画、写真を飾り、心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで座ったり、畳に横になったり、他のご利用者と話をしたり、雑誌を見たり、ゆったりと過ごすことが出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	机の上やタンスの上に置けるご家族の写真や置物・仏壇などのほか、敷きパッド・タオルケットなど、使い慣れているものを持って来てもらい、居心地の良い場所作りをしてもらっている。	入居の際には、使い慣れたものを持ち込まれるよう説明しており、利用者の家族写真が飾られ、置物・仏壇などのほか、敷きパッド・タオルケットなどの使い慣れた小物等の私物が持ち込まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー対応で、廊下・トイレ・浴室に手すりを設置している。エレベーターが完備されており、定期的に点検も行われている。		

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で穏やかな生活を続けられるように、管理者・職員は毎日の業務ミーティング時に理念を確認し、実践につなげている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に自治会長・民生委員や近所の方にも出席をしていただいている。また、毎年地域の自主防災会にも参加している。近所の方の訪問や見学も増えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にグループホーム・認知症への理解を深めていただくために、施設内の見学、パンフレットの配布、近所の催しへの参加を行っている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、理解と支援をいただくために、日ごろの取組内容や具体的な改善課題について、報告・情報交換・意見交換を積極的に行い、サービス向上につなげている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市介護保険課や地域包括支援センターの担当者に、介護保険制度に関する問い合わせや確認、施設のみで対処困難となる事例の相談をし、協力を得ている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束に関して、正しい理解と実践を行うため、内部研修を行っている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に参加して、職員一人一人が知識と意識をもって、虐待のない施設運営に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解を得るために、職員それぞれが学習し、活用するために地域包括支援センターをはじめとする関係各所と都度相談を行っている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容について十分に時間をかけて説明し、わかりにくい点、不安や疑問が生じていないかを確認している。また契約後も細かく対応を行っている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者及びご家族などからの意見・要望は、全職員が理解できるよう申し送りで報告し、サービスの向上に活かしている。また運営推進会議でも代表的な事例を報告し、出席者からの意見を聞いて、今後につなげている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全ての職員が、理事長・理事にそれぞれの意見や提案を聞いてもらう機会が日常的にあり、対応可能なものは反映されている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長・理事は、管理者や職員の日ごろの努力や具体的な実績・勤務状況などを職員処遇へ反映し、向上心を持って働けるよう配慮している。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長・理事が職員の日常業務を観察して、力量を量り、内部研修の他に外部研修を受けて、技術の向上を目指している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと互いの施設見学を行ったり、意見交換をしてサービスの水準の向上に取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご本人と面談するだけでなく、相談員・ケアマネジャー・ご家族からこれまでの状況・生活歴などを聞き、ご本人に寄り添えるよう関係づくりに努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、ご本人・ご家族等に見学に来てもらい、困っていること、不安に思っていること、要望等を可能な限り、時間をかけて聞いている。また、入居後も細かくフォローを行っている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時のご本人・ご家族等の実情や要望をもとに、必要としている支援を見極め、最適な支援方法を模索し、解決につながる選択肢をご本人とご家族へ再提示し、対応している。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご本人と生活を共に支え合い、穏やかな生活が継続できるよう、親密なコミュニケーションと介護技術の実践から信頼関係を築くよう努めている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員のみで対応に苦慮している事柄について、ご家族の面会時に報告・相談しながら、これまでの両者の関係の中から解決できるヒントを探し、良い方向へ導く努力をしている。また、疎遠気味のご家族へは近況報告をしている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもとに、友人・知人との面会や外出等、なじみの関係が途切れないように支援に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はホールで過ごし、日々の出来事を共有して、一人一人が孤立しないよう仲良く協力し合って、生活が出来るように支援している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されて他の施設・医療機関等に行かれた方も、相談があれば情報提供などの対応している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で生まれるご本人の希望・要望について、理事・管理者・職員間で話し合い、最適な解決方法を常に模索している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居するまでにご本人を支えていたご家族やケアマネジャー・ソーシャルワーカーから、幅広くこれまでの経過を情報提供してもらっている。ご本人からもこれまでの暮らしを聞いて、より把握できるよう努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り等により、一人ひとりの一日の過ごし方を職員全員で共有し、把握することに努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント・モニタリングを繰り返しながら、ご本人やご家族等と話し合う中で出された意見やアイデアに対し、柔軟に対応した介護計画書を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は個別にわかりやすく記載して、職員間で情報を共有している。介護の実践・介護計画書の見直しは、チームで意見確認をしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族からの希望があれば、フォーマルサービスだけでなくインフォーマルサービスの利用も可能であり、柔軟に対応している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年お花の日に、近くの保育園から園児がお花を持ってきてくれている。保育園のお祭りには参加できる入居者が参加したりしている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には運営母体の泉クリニックがかかりつけ医となるが、入居時にこれまでのかかりつけ医を希望される方は、引き続き受診していただいている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に医師・看護師と連携を取っている。週に一度看護師が訪問して、全入居者の状態の確認・指示・医師への報告をしている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者が医療機関に入院した際には介護サマリーを提供し、定期的に電話で経過確認をしたり、見舞いをしたりして状況把握に努めている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にあらかじめ重度化や終末期に至った場合に事業所のできることを説明し、ご本人・ご家族から意向を聞き、主治医に伝えている。入居後もご本人の状況に合わせて、その都度確認をとりながらサービスを提供している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変や事故が発生した場合に、全職員が確実に行動できるようマニュアルを整備し、施設内外での研修にて技術を習得している。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での避難訓練は年2回行っている。地域の災害訓練には、年1回ご利用者と参加している。施設内避難に備えて、食料や飲料水などの備蓄をすすめている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを込めたはずのコミュニケーションが、過ってご利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう、職員一人ひとりが、自ら及び共に働く職員を律する意識を持つことを心掛けている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を継続していく中で、できる限り自己決定の機会がもてるよう、職員から問いかける機会を設けるよう心掛けている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での大まかなスケジュールはあるが、急かさず一人ひとりのペースに沿って、読書や音楽鑑賞などを楽しんでもらっている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望があれば、ご家族や知人の協力のもと、美容院へ行ったり、洋服や必要なものの買い物を行っている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の配膳・下膳・後片付けなどを行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食材が配達され、それを毎食調理している。一日の摂取量を記録し、毎月体重測定・BMIのチェックをしている。水分の取りにくい人や保持しにくい人には、スポーツドリンクを摂取してもらっている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週1回の訪問歯科による口腔ケアがあり、その指導のもと自主的にできる人は、毎日毎食後に自身で口腔ケアを行っている。できない方は、夕食後に介助見守りを行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行うのみならず、尿意・便意のある方はその都度トイレへ誘導している。おむつに頼るのではなく、可能な限りトイレでの排泄を促している。また排泄表の記録も行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ラジオ体操・足踏み運動をしている。排泄表により、排便状況に応じて牛乳・スポーツドリンクなどの水分をよく取ってもらい、便秘の解消に働きかけている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は基本的に週3回午前中に行っており、好きな曜日・時間帯で行うことはできないが、入浴の順番は可能な限り希望を聞きながら行っている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り一日のリズムを崩さないために、日中はホールで過ごしていただいている。一人ひとりの希望や状況に応じて、椅子・ソファ・畳にて思い思いに心地よく過ごされるよう支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋が出された際に、その都度職員は確認して、薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、これまでの処方箋状況から変更があれば、記録に記載し申し送りしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事により、四季折々のことを楽しく過ごせるように、ご利用者が出来ることを考えている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物・お墓参り等の施設外への外出には、ご家族またはボランティア・知人の方に、協力・支援してもらっている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時から、現金は待たない、預からないようにしている。ご本人が購入したいものがある場合は、ご家族の了承を得て、立替購入している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人・ご家族より希望があれば、電話をかけたり、手紙やはがきを投函している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏冬とも温度管理リストがあり、温度設定がされている。夏はエアコン、冬は床暖房を使用している。庭には、春には桜が咲き、夏には蝉が鳴き、秋には紅葉が色づき、冬には落ち葉となって、四季を感じるができる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで座ったり、畳に横になったり、他のご利用者と話をしたり、雑誌を見たり、ゆったりと過ごすことができるよう工夫している。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	机の上やタンスの上に置けるご家族の写真や置物・仏壇などのほか、敷きパッド・タオルケットなど、使い慣れているものを持って来てもらい、居心地の良い場所作りをしてもっている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー対応で、廊下・トイレ・浴室に手すりを設置している。エレベーターが完備されており、定期的に点検も行われている。